



News+

生徒の活躍を  
応援したい

有限会社村田建業は、「部活動を頑張っている生徒たちを少しでも応援したい」との思いから久慈中学校体育館のバドミントンシングルコート用のラインを無償で整備しました。

同校2年の女子バドミントン部のキャプテン稲葉天歩さんは、「整備をすると聞いたときすごくうれしかったです。練習も楽しくできています。このコートを使ってこれからも部活動を頑張ります」と感謝の気持ちを述べました。

ごみの分別ワンポイント!

家具などごみ集積所に  
出せないごみ

引越しなどに伴う家具などの粗大ごみは、通常の取り扱いと同様に次の点に注意して適正に処分してください。

- ▶机、椅子、自転車など、60cm×100cm以上または1袋・1束が20kg以上のごみは、ごみ処理施設へ直接搬入してください
- ▶スプリング入りマットレスやソファなどは、可燃部と不燃部に分別すればごみ処理施設に直接搬入することができます。3月27日は日曜日ですが8時30分～12時の間、ごみ処理場への直接搬入が可能です



中小企業向け事業復活支援金

INFO

関商工観光課 ☎52-2123

国は、コロナの影響を受けた中小法人・個人事業者に対し、事業の継続や回復を支援するため、事業復活支援金の支給を行っています。給付上限額は、中小法人が最大250万円、個人事業者は最大50万円です。詳しくは問い合わせください。

- ▼申請期間：5月31日(火)まで
- ▼給付対象：新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業者で、令和3年11月～令和4年3月のいずれかの月の売上高が、平成30年11月～令和3年3月の間の任意の同じ月の売上高と比較して50%以上または30%以上50%未満減少した事業者
- ▼事前申請の登録確認機関：支援金の申請には、登録確認機関の事前確認が必要で

▼HP：https://jigyou-fukkatsu.go.jp/index.html



- ▼相談窓口：事業復活支援金事務局 ☎0120-789-140
- ※新岩手農業協同組合久慈営業経済センター（組合員に限る）は今後登録予定です

- ①久慈商工会議所（商工業者に限る）
- ②久慈市漁業協同組合（組合員に限る）
- ③東北銀行久慈支店（事業性融資先に限る）
- ④盛岡信用金庫久慈支店（事業性融資先に限る）

鳥インフルエンザが発生

INFO

関農政課 ☎52-2121

2月12日に、市内の養鶏農場の鶏が、高病原性鳥インフルエンザの検査で陽性判定を受けました。発生した農場で飼養されていた鶏は殺処分され、14日午後に埋却が完了しています。鳥インフルエンザに感染した鶏の肉や卵が市場に出回ることはありません。県と市は協力し、他の農場に感染が広まらないよう2月12日から、長内町・大川目町・夏井町の市内3カ所に消毒ポイントを設け、通行する関係車両に対し24時間態勢で消毒を行っています。



通行する関係車両を消毒

- ①鳥の排泄物などに触れた後は、手洗いとうがいをし、野鳥などに立ち寄って、野鳥のふんを踏んだ場合は、念のために靴底を洗う
- ②死んでいたり、衰弱している野鳥を見つけても素手で触らない。見つけた場合は、県北広域振興局保健福祉部（☎66-9681）に連絡してください。

久慈城跡が県の指定文化財に答申

NEWS

久慈城跡の保護の取り組みも評価



上空から見た久慈城跡（西側から撮影）

2月4日、岩手県文化財保護審議会が県教育委員会に対して、久慈城跡の岩手県指定文化財への指定を答申しました。これを受け、3月の県教育委員会定例会における議決を経て、県報告示により正式に指定される予定です。

久慈城は、中世に久慈地域を治めた南部氏の一族「久慈氏」の居城で、久慈備前守信実が文明年間（1469～87年）に居を構えたことが記録されています。天正19年（1591年）の九戸政実と南部信直との「九戸一揆」において、久慈直治・正則父子が九戸方の武將として参戦し、敗れたことにより、久慈氏の直系は滅亡し、廃城となりました。周囲を川と濠で囲まれた独立丘陵に立地し、頂上の平場につくられた主郭やそれに連なる複数の郭、馬場跡などが良好な状態で残存。中世の山城の特徴を備えた貴重な史跡として、昭和48年に市指定文化財に指定されました。平成29年からは、大川目中学校の生徒が清掃活動を継続。令和元年からは、大川目まちづくり協議会・九戸歴史民俗の会・久慈市観光物産協会・久慈城の会の4団体が「久慈城跡保存協議会」を設立するなど保存活動が進められており、今回の答申はこれらの取り組みも評価されたものです。

恐竜化石の活用戦略を学ぶ

NEWS

太古ロマンのまちづくり講演会



講演する栗原代表

1月21日、市内催事場とオンラインで「北海道むかわ町の恐竜化石を活かしたマーケティング戦略に学ぶ」と題して太古ロマンのまちづくり講演会が開催されました。北海道勇払郡むかわ町では、同町穂別地区から全身の骨格が発掘され、新種として認められた「カムイサウルス・ジャポニクス（むかわ竜）」の発見を契機に、平成27年に「むかわ町恐竜ワールド構想」を策定。恐竜化石を活かしたまちづくりを掲げ、化石を核として町の持つ資源を結び付け、地域の活性化を図る取り組みを推進しています。



オンラインを含み約60人が聴講

講演では、同町経済恐竜ワールド戦略室の太田晶さんが、人口減少などの課題に対処する活力を再創造する手段として、化石の活用が提案されたことなどを説明。住民の参画を得るきっかけづくりの重要性や、学術機関との連携の必要性などを訴えました。続いて、同町の民間ボランティア団体「むかわ町恐竜ワールドセンター」で代表を務める栗原健一さんが、有志11人でスタートし、情報発信やガイド育成、体験メニューの開発や地域商社の起業などを進めてきたことを発表。「長年、自慢できることのない町だと思っていたが、行動する中で、少しずつ可能性を感じるようになり、今では自ら町の魅力を発信したいと思えるようになった。自分と同じ悩みを持っている人には、すこしでも何か行動を起こして欲しい」とエールを送りました。